

# ジリーノ GIRINO の夜

まほろば主人



## ジリーノでのサプライズ

玉生君も純ちゃんも、元気だった。(玉生宗弘君は、まほろばソフテリアの元シェフ、純子さんは奥様)

10年ぶりの「ジリーノ」での再会。来たい来たいと思ってはいたが、中々来られなかった。

佐々木信豪君の、「是非とも一緒に行きましょう」という誘いがなければ、遠い彼方に感じられた。

羽田からバス、電車で終点、江の島片瀬海岸。

降りると、駅からブログで見覚えのあるジリーノの看板。

歩いて2分。これは近い。

行くと、大貫妙子さんがTAXIで到着。

佐々木君が出迎えて、三人で玄関に入るや、サプライズ!!!!

玉生夫妻には私たちのことは内緒で、構えないように、知らせなかったという。

さらに、アーティスト大貫さん初登場だから、二重の驚き。





小田急江ノ島線「片瀬江ノ島」駅からほど近い閑静な住宅街の一角にたたずむ日本家屋がジリーノ。テラスからは庭園が開け、海風と青空を堪能できる。

### ジリーノ

神奈川県藤沢市片瀬海岸2丁目7-12

TEL:0466-52-6850 (要予約)

定休日：月・第2火曜

大貫さんは、ここから近い葉山のお住いだから、私からお誘いした。

瀟洒な日本屋敷の平屋。庭の植栽が、年月を重ねた得も言われぬ風情がある。

最初、2、3軒隣で開店、間もなくここに移ったというが、これは余程の縁がなければ持てる物ではないだろう。大貫さん曰く、「都内のオーナーやシェフ、みな血まなこになって探しているが、こんな所まらずないわよ」

そこは、世が世ならば、笠間城の若殿様だったはずの玉生君の祖徳の然らしむる所だろう。

この地の利に加え、すぐ江ノ島浜に繋がる川が流れている。

### 苦勞の跡

お互い顔を見合わせ、10年の月日を感じさせな

いものに、むしろ苦勞の跡を感じた。

玉生君は、何というか育ちの良さか、物事に恬淡で、スウーと通る無欲な光があり、奥様の純ちゃん、心は溶け入るばかりに艶のある情の人だ。

私はすっかり忘れていたが、まほろばとの別れ際、武原はんさんの地唄舞「雪」を見たら良いよ、と言い残したらしい。天性のフラの踊りが得も言われず、そこを静かなる日本舞踊、それも地唄舞を習っているというから、こんな嬉





# GIRINOの夜



しいことはない。媯然とした、しかも物侘びた哀しい後影をしつとりと舞うに違いない。誠に纏綿たる情緒の世界なのだ。いつか、是非見させてもらいたい。

出てくる、料理の盛り合わせも相変わらずのセンス、味付けも素味にして玄い。彼の優しい人柄が生き写しのように食材に憑依る。

## まほろばの卒業生

こうして、まほろば卒業生が独立して立派になってくれることは甚だ嬉しい。

昨年末、元社員の城越ゆかりちゃんが仁木の新規就農の若人に嫁いだ祝いの席に、半分以上まほろば卒業生が占めて挨拶してくれた。この佐々木君も独立して造園主になり、別事業も興して海外でも活躍。厚別店長の渡辺匠君も新会社を興し、山形のアルケッツチャーンに行っていたソフテの茶間さんも修行から帰って来た。パートナーの渡辺さんも嫁ぎ二人の子持ち、みな立派に育っている。農業でも、小別沢の川合君、八雲の大林君、

上ノ国の佐々木君、東川の南君たちも自立独立して巣立つてゆくことは愉快なことだ。何処にいても、まほろば精神を心の片隅において、何かに役立てばこれ以上のことはない。

今回の上京で、ジリーノを随分宣伝させてもらった。東京で話をすると、みな興味を抱いて、是非行きたいという。もう少し早く来て、知らせば良かったな、と後悔することしきりなのだ。きつと、もつともつと発展して行くに違いない。湘南の名店「ジリーノ」をよろしくご贖<sup>ひいき</sup>に、お願い致します。

それと、もう一つ知ったこと。それは、大貫さん曰く「私の体の90%以上、まほろばで出来ています!!」

???これを聞いて、目を丸くしたのは私だけでない。

聞くと、毎日のように新製品や入荷状況を、まほろば従業員の間



「Pure Acoustic 2018 [Analog]」

Taeko Onuki 定価：3200円+税

現代の日本のシティ・ポップを語る上で欠かせない存在である大貫妙子による名コンサートシリーズ「Pure Acoustic」コンサートの待望のライブ盤。録音：2018年3月24日(土)新宿文化センター大ホール

ストリングスの弦楽器の音味が、彼女の声に寄り添うように、沁み込むようにして、唄が一層私たちの心の水底に届く。

新しい「新醬」の諸味をお土産に。即それを使った料理がテーブルに。

そのパフォーマンスの早業と機転と技に、

感動してしまった。

兎に角、ジリーノで何か起こる予感がしている。

Girinoはイタリア語で、「オタマジャクシ」。そろそろ、手が出て足が出て、大ガエルに変身の春である。

藤元子さんからのメールでチェックして週に一回は配送してもらうとのこと。まほろばだよりも隅から隅まで目を通して、私の知らないものまで詳しい。とにかくビツクリなのだ。

どんなにか、まほろばグッズで囲まれているか知らせたい、とのこと。早速、工藤記者に取材に行ってもらわねばならない(笑)。

何か、突き進む集中力のある方は、やはり何処かが違うな!と痛く感心してしまった。

そして、最近の新譜「Pure Acoustic 2018 [Analog]」が素敵だ。

